



S H U N K E N 2 0 0 6 - 0 4 3 4 - 0 1



駿建

2006年新学期号 Vol.34 No.1 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

プロフェッショナルを目指して

白井伸明



教育に関するグローバルスタンダード

わが国の大学における建築学科は、一部の例外を除き、工学部あるいは理工学部へ属し、その教育プログラムは世界の中でもユニークである。欧米の大学における建築学は「デザイン教育 (Design Education)」を核とした体系であり、建築学科は芸術系の学部へ属するか、あるいは独立した学部として組織されているようである。一方、日本の大学における建築学は「デザイン教育」と「工学教育 (Engineering Education)」が混在した体系となっている。本学のカリキュラムに当てはめると、デザイン教育は「設計・計画コース」の学科目と「企画経営コース」の学科目の一部により構成され、工学教育は「環境・構造コース」の学科目により構成されるカリキュラムに該当することになる。

人々の建築物に対する要求としては、例えば芸術性・機能性・快適性・安全性などが挙げられ、これらは概ね世界共通であろう。しかし、建築学としての発展経緯は、その国の歴史・文化・宗教・自然環境などの背景によって、異なることは想像に難くない。地震活動度が高く、また自然災害の中でも地震による建築物の被害度が極めて高いわが国では、地震に対する安全性、つまり「耐震性」が重視されてきた。こうした背景の下で、「デザイン教育」と「工学教育」の融合が図られてきたと考えられる。

さて、世界的に共通の尺度でものごとを考えようとする「グローバルスタンダード (GS: Global Standard)」なる一元化の概念が叫ばれて久しいが、大学の教育に関しても例外ではない。この一例として、数年前よりスタートした日本技術者教育認定機構 (JABEE) による大学教育プログラムの認定制度が挙げられる (図参照)。この制度は、優れた技術者の教育に関する国際的な同等性を確保することを目的としている。ここで、「国際的同等性」は目標であるが、同等性を具体的に検証するのは難しい。したがって、現状では、各大学が独自の教育目標 (学力レベル) を設定し、教育・学習の成果としてこの目標が達成されていることを保証することとして運用しているようである。

この制度の健全な発展による利点としては、例えば、教育プログラムに関する点検・改善の促進、単位互換が

容易となり留学や学士入学など、国内外での人的交流の活発化などが挙げられる。それでは、国際的同等性の確保を目標にこの制度を単純に受け入れることが可能であろうか。ここで大きな障害に突き当たる。先に述べたように、日本の建築学科では「デザイン教育」と「工学教育」が混在しており、欧米の教育システムとの一対一の整合をとることが困難なことである。GSの観点からすると、日本の建築教育はユニークではなく特異ということになる。

2006年2月16日の新聞で、王立英国建築家協会が優れた建築家を毎年1人選んで表彰する2006年「ロイヤルゴールドメダル」を伊東豊雄氏が受賞したと報じた。日本人としては、丹下健三、磯崎新、安藤忠雄の各氏に続き4人目となる。こうした傑出した建築家の誕生は、日本の建築教育が優れていることの証といえるのであろうか。安藤氏を除く3氏は個人としてのポテンシャルや努力に加えて、優れた大学教育の恩恵も受けていると考えられる。一方、安藤忠雄氏のみは大学に進学しておらず、大学教育の恩恵は受けていない。安藤氏は、若いときボクサーを目指すなどさまざまな経歴をもち、独学辛苦とコンペ挑戦での挫折を経て現在に至っていると聞いている。多くの優れた作品創造の原点は何であろうか、興味のあるところである。

筆者は、本小文において、日本と欧米の建築教育体系の違い、教育プログラムの認定制度、大学教育と個人の関係について考えてきた。私たちファカルティは自己点検や授業評価などを通じてさまざまな改革に取り組み、より良い制度と優れた教育プログラムの確立を目指している。しかし、これらの制度やプログラムが有効に機能するかどうかは、ひとえに学生個々の意思・努力・ポテンシャルに依存すると考えている。建築学の中で自分のポテンシャルを生かせる分野を見出し、無駄や努力を惜しまず、本物のプロフェッショナルを目指して成長されることを期待する。

(しらいのぶあき・建築教室主任、教授)

平成18年度 履修要項

建築学科

平成18年 4月

■ 履修に関する一般事項

◆履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書だから、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。

平成18年度クラス担任 学部

学年	クラス担任		研究室 No.
1年	専門	岡村 武士 川島 和彦	船・大型構造物試験棟 駿・5号館 577B室
	A組	中川 浩	船・5号館 541C室
	◇	小林 正史	
	B組	稲井田次郎	船・5号館 543C室
	◇	小川 貴	船・スポーツホール D室
2年	C組	三島 隆	船・1号館 121A室
	◇	小中 秀彦	船・5号館 571室
	1組	渡辺 富雄	駿・9号館 966A室
	◇	富田 隆太	駿・5号館 583A室
	2組	石垣 秀典	駿・4号館 454室
3年	◇	佐藤 光彦	駿・9号館 966B室
	1組	岡田 章	駿・4号館 439B室
	◇	峰巢 浩生	駿・4号館 453室
	2組	今村 雅樹	駿・5号館 589A室
	◇	橋本 修	駿・5号館 583A室
4年	1組	大川 三雄	駿・5号館 588A室
	◇	八藤後 猛	駿・9号館 965B室
	2組	柳田 武	駿・5号館 579室
	◇	田嶋 和樹	駿・3号館 331室
	再修生	根上 彰生	駿・5号館 577A室
学生相談室相談員		三橋 博巳 岡村 武士	駿・3号館 332室 駿・9号館 952B室

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	本杉 省三	駿・5号館 578B室
2年	安達 俊夫	駿・4号館 433A室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年	宇於嶋勝也	駿・5号館 577B室
2年	横内 憲久	駿・9号館 9121室

なお、本年度の2年次編入生には平成17年度の、また3年次編入生には平成16年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にともなって改訂されることがある。平成15年度の改正によって、1～4年次生、5～8年次生では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。平成15年度から適用されている新しいカリキュラム（通称「新・新カリキュラム」）では大幅な改訂が行われている。5年次以上の学生が1～4年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表（時間割の裏面参照）によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

◆相互履修および単位互換制度 平成7年度から、日本大学相互履修制度が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能学科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短期大学部にまで拡張したものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

◆他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があつて、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる（履修要覧参照）。

◆受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは

必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

◆**教職課程・学芸員課程の受講** 中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項〈教職課程・学芸員課程〉を参照されたい。

◆**GPA 制度 (Grade Point Average)** 平成 17 年度入学生より日本大学として統一した成績評価システム (GPA 制度) が導入された。これは授業内容の向上や成績評価の統一化、などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1 年次生のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

■ 1 年次生

○履修要項と学科の概要について

1 年次生は、ガイダンスの時に配布される平成 18 年度 (2006) 学部要覧に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに配布される授業計画 (シラバス) で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース (環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース) の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

○新・新カリキュラムについて

平成 15 年度から始まったカリキュラムは、将来必要となる国際資格 (JABEE, UNESCO-UIA) にも対応した科目構成となっている。学部要覧の授業科目配置表を見るとわかるように、初年次からの 2 年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3 年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できること、が本カリキュラムの特徴である。なおいずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は 2 年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられてお

り、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築教室がコースを決定する。

○総合教育・外国語の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が 1 年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第 2 外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

○基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が、設置されている。前者の共通科目の微分積分学、基礎物理学 I および工業数学は、基礎となる重要な科目であるから、できるだけ 1 年次で単位を修得するようにしたい。また後者の専門基礎教育科目には、建築基礎実験とデザイン基礎の必修 2 科目およびコンピュタリテラシ、情報処理の選択 2 科目が設置されている。これらは全て建築学の基礎であるから、1 年次で全て受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、デザイン基礎の単位を修得しないと後期の「建築設計 I」を受講できないことに留意すべきである。

○専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修 3 科目と選択 4 科目の計 7 科目が設置されている。この内、環境の計画と技術 (必修)、建築デザインと歴史、構造の計画と技術、社会と建築・都市の 4 科目は、建築全般を概観する教科である。これらは 2 年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を習得するものであり、全ての受講をすすめる。なお初年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、「建築設計 I」の単位を修得しないと「建築設計 II」を受講できないことに留意すべきである。

1 年次では最大 46 単位までの履修登録が認められる。無計画に毎日 5 時限まで授業を組む必要はない。卒業までの 4 年間でどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

■ 2 年次生

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した平成 17 年度 (2005) 学部要覧による。2 年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために 2 クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生

番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい(クラスを変更した受講はできない)。なお1年次設置の専門科目を受講する必要がある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置科目の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目(11科目)はもちろんのこと、共通に位置づけられている8科目についても、「必修」と同様に考えて受講してもらいたい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目の「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う科目「設計演習Ⅰ」、「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容で、コースをまたがって受講できるようになっている。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目(卒業のためには※印6科目中5科目以上を取得する必要がある)であり、本コースを目指す場合には、必ず受講することをすすめる。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「建築学科履修の手引き」を再読して、各学科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「線形代数学」、また専門基礎教育科目では「材料化学Ⅰ」と「建築情報処理Ⅰ」の3科目が設置されている。受講計画は、構造、環境工学、都市計画の基礎として「線形代数学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を、環境工学、建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」の受講をすすめる。

○環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また3年次には、例えば設計・計画コースの「建築設計Ⅴ(設計・計画系群科目)」のように、コース毎に独自の科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになること、にも注

意してほしい。いいかえれば、2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4年間で卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築教室は「2年終了時の取得総単位数が42単位」という条件を設定している。これは卒業研究への着手条件(3年終了時に102単位)から、1年間で取得できる単位数の上限(60単位)を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく取得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に、建築教室が実施するが、学生個々の取得科目の成績(総得点、平均点)や種類などに基つき適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名、企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程はクラス担任から掲示や建築学科のホームページを通じて伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

○建築設計Ⅱ、Ⅲおよび建築生産実験の受講について

建築設計も実験も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項が、駿河台校舎5号館1階と5階のエレベータホールに掲示されるので、必ず掲示を確認するとよい。

■ 3年次生

○各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかのコー

スのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「学部要覧」あるいは「建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講する場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

3年次では、最大60単位までの履修登録が認められる。受講計画の際にはこの点について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

○基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」、「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」、「芸術史」が設置されている。受講計画上は、構造・環境・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」と「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

○専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コ

ースの独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目と選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容（シラバス）で実施する科目」ということであるが、各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また表1の※印のついた科目は、一級建築士の受験時に極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

○専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも、将来のスペシャリ

表1 共通科目の構成（3年次）

科目	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	○	○	○
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	○	○	△
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○	○	○
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可

※ 一級建築士受験のために重要

表2 各コースの独自科目一覧（3年次）

	環境・構造コース		設計・計画コース		企画経営コース	
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2	×建築設計Ⅳ	2	都市デザイン*3	2
	環境工学Ⅲ	2	×設計演習Ⅱ	2	経済学特論Ⅰ	2
	構造力学Ⅳ	2	×設計演習Ⅲ	2	経済学特論Ⅱ	2
	構造力学演習Ⅳ	1	設計計画Ⅰ	2	会計学	2
	地盤基礎工学Ⅱ	2	設計計画Ⅱ	2	民法Ⅰ	2
	対地震構造	2	ランドスケープ デザイン*1	2	民法Ⅱ	2
	鉄筋コンクリート 構造Ⅱ	2	インテリア デザイン*1	2	行政法規	2
	構造設計Ⅰ 及び演習	3	建築史Ⅲ	2	不動産経営	2
			建築史Ⅳ	2	不動産維持管理	2
			都市デザイン*3	2	鑑定評価理論Ⅰ	2
			×都市調査 及び演習	2	環境システム解析	2
			×デザインワーク ショップⅠ*2	1	地域開発計画Ⅰ	2
					地域開発計画Ⅱ	2
					×建築企画設計	2
					×不動産企画 及び演習Ⅰ	1

× 他コースは受講不可能

*1 2006年度は夏季集中講義で実施

*2 2006年度は夏季集中講義として、デザインワークショップⅡ（4年生）と同時に開かれる

*3 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

ストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、また卒業条件には10単位まで算入可能であるが、卒業研究着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された各コースの独自科目の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

○他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち共通科目のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、各コースの独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件を全て満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合
- ・3年次終了時に卒業研究着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち他コースの独自科目の受講は他学科の科目受講の扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、10単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究着手条件には算入できないことに留意すべきである。

○卒業研究着手条件について

4年次に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%に当たる102単位以上を3年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるため、十分に注意してほしい。この卒業研究の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・総合教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、14単位、2単位、16単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて取得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、英語6単位まで、その他の外国語4単位まで算入する。
- ・他学科の設置科目（他のコースの独自科目も含む）は、

算入しない。

- ・専門教育科目の3年次までの必修科目（環境・構造コース：17科目31単位、設計・計画コース：16科目31単位、企画経営コース：17科目32単位）から24単位以上修得していなければならない。

これらの条件の内、先の3条件を考慮すると、専門教育科目の修得単位数は、必修科目を含めて60単位以上修得する必要があることになる。

また、次年度の卒業研究・設計に十分な時間をかけて悔いのない大学生活を送るためには、3年次終了までに修得単位数が卒業条件として有効な単位だけで少なくとも114単位以上あることが望ましい。

○3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1、2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コースの設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

■ 4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

○卒業研究の着手について

建築学科における卒業研究着手条件は、上述の「3年次生」の項目に記述している「卒業研究着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成18年1月に配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や4月初めの卒研ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

○卒業研究・設計とは

大学生活の締めくくりは、4年生の卒業研究・設計である。各研究室が自由に、国際的に通じるような研究を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくこ

表3 共通科目の構成（4年次）

科目	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	10	●	●	●
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表4 各コースの独自科目一覧（4年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	環境計画 2	特別講義*1 (デザイン論) 2	不動産特別講義 2
	設備計画 2	×建築設計Ⅵ 2	不動産マーケティング 2
	特別講義*1 (構造設計論) 2	設計計画Ⅲ 2	鑑定評価理論Ⅱ 2
	×測量及び実習 2	保存修復論 2	都市防災 2
	構造解析法 2	×デザインワーク ショップⅡ*2 1	×不動産企画 及び演習Ⅱ 2
	構造設計Ⅱ 2		建築 マネジメント 2

× 他コースは受講不可能

*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

*2 2006年度は夏季集中講義。デザインワークショップⅠ（3年生）と同時開催

とに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。したがって、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち、修士論文と卒業研究の指導が先生個人にも、大学にとっても教育の中心となっている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先生方との貴重なふれあいが、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。

1年間、研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めることにある。

研究・設計には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつめながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究・設計である。

○専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの4年次に設置されている専門教育科目を表3と4に示す。2,3年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースで設置科目の中から選択して受講するとよい。4年次では、最大60単位までの履修登録が認められる。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件を全て満足する必要がある。

- ・3年次終了までの修得単位数が125単位以上の場合
- ・4年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印要）
- ・表4中の×印の付いていない科目の場合

なお、他コース設置科目を修得した場合、10単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。

○専門教育科目に関する卒業条件

ここでは平成15年度からのカリキュラムを対象として説明する。平成14年度以前の入学者については、入学時に渡された「学部要覧」、「建築学科履修の手引き」、あるいは昨年の「駿建」(2005.4月号)を参照してほしい。建築学科の卒業に必要な単位は130単位以上と設定されているが、この内、総合教育科目が14単位、外国語科目が10単位、保健体育科目が2単位、基礎教育科目が16単位、その他いずれの科目区分にもよらない科目（他学科・他コース受講科目）が10単位、それぞれ上限値として算入されるため、専門教育科目としては78単位以上取得する必要がある。この専門教育科目に関わる卒業条件は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なり、注意が必要である。例えば環境・構造コースは共通科目の取得を重視しているのに対して、設計・計画コース、企画経営コースは3年次以上のコース独自科目の取得が必要とされている。

【環境・構造コース】

- ①必修科目17科目41単位
- ②選択共通科目（26科目50単位）から、1・2年次の科目9科目以上を含めて29単位
- ③環境・設備系群科目（6科目10単位）から8単位、または構造・生産系群科目（15科目27単位）から8単位

の3条件を全て満足して、78単位以上修得することが条件となっている。卒業研究に着手できた場合、4年次前期で十分に修得できる単位数である。履修計画を立てる際には、各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて、卒業研究の指導教員やクラス担任と相談の上、選択するのが望ましい。

【設計・計画コース】

- ①必修科目17科目41単位
- ②選択共通科目（27科目50単位）から1・2年次の科目7科目以上を含めて17単位
- ③設計・計画系群科目（18科目34単位）から20単位の3条件が設定されている。この内、③は2年次の科目の設計演習Ⅰ以外は全て3年次以上のコース独自科目である（表2,4を参照）。この中には建築設計、設計演習、デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており、受講計画の際にはこの点を考慮しておく必

要がある。

【企画経営コース】

①必修科目 18 科目 42 単位

②選択共通科目 (22 科目 41 単位) から 12 単位

③企画経営系群科目 (21 科目 41 単位) から※印の科目
〔「建築企画経営」,「経済学特論Ⅰ」,「民法Ⅰ」,「建築企画設計」,「不動産企画及び演習Ⅰ」,「不動産企画及び演習Ⅱ」の 6 科目〕を 5 科目以上含めて 24 単位

の 3 条件が設定されている。

企画経営コース 4 年次設置の専門科目は、コース独自科目がほとんどである。各自の卒業研究・設計テーマとも関連づけて、クラス担任と相談の上、選択するのがよい。

○就職について

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実是这样うまくゆかなくて、就職活動は 1 月、3 年次の期末試験前後から始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報 (学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり) を見たり、企業のホームページ、D. M. を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

○大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期 (修士) 課程への進学をすすめる。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が有利である。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期 (修士) 課程と博士後期 (博士) 課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成 19 年度入学試験の募集定員はそれぞれ 50、10 名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生 (社会人は除く) が受験できる入学試験は、7 月に実施される「推薦入学試験」と「一般Ⅰ期入学試験」、9 月に実施される「一般Ⅱ期入学試験」の 3 種類である。

現状では、大学院進学者は学部 4 年次卒業研究の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉学・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員 (現状 18 名) を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

●設計・計画系 (建築史特別研究, 建築計画特別研究, 都市計画特別研究): 7 名
片桐正夫 (歴史), 高宮眞介 (計画), 本杉省三 (計画), 横河 健 (計画), 今村雅樹 (計画), 小嶋勝衛 (都市計画), 根上彰生 (都市計画)

●環境・設備系 (環境工学特別研究): 3 名
井上勝夫, 関口克明, 早川 眞

●材料・構造系 (建築材料学特別研究, 建築構造学特別研究, 防災工学特別研究): 8 名
清水五郎 (材料), 安達俊夫 (構造), 斎藤公男 (構造), 白井伸明 (構造), 半貫敏夫 (構造), 秋山 宏 (構造), 三橋博巳 (構造), 石丸辰治 (防災)

建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

1. 大学院教員 1 人あたりの受入大学院生数は概ね 6 名までとする。
2. 推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績 (卒業研究着手時) が概ね上位 25 ~ 30% に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院教員が推薦できる学生数は最大 4 名までとする。
3. 大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、3 年次に実施される自己実力診断模擬試験および国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。
4. 短大教員を含む専任講師以上の大学院教員以外の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員 1 人あたり 2 名までとし、協同指導の大学院教員の 6 名枠に含めるものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは 4 年生クラス担任に相談するとよいだろう。

また、不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は、三橋博巳教授に相談すること。

■ 建築実験について

建築実験は、それぞれ十数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表 5 に示す。

■ 建築設計について

1～4年次生は新・新カリキュラム，5年次生以上は従来のカリキュラムでの履修になるので留意すること。

○ 1～4年次生（平成15年度以降入学者）

選択するコースによって，建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

建築設計はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で，2年次後期の設計演習Ⅰは選択科目である。3年次前期の建築設計Ⅳは，設計・計画，企画経営コースでは必修科目，環境・構造コースでは選択科目であり，課題内容も異なる。

建築設計Ⅴ，Ⅵ，設計演習Ⅱ，Ⅲ，デザインワークショップⅠ，Ⅱは，設計・計画コースのみの設置科目であり，選択科目である。将来，主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

デザインワークショップⅠとⅡは，今年度8月上旬に夏期集中授業として同時に開講される。3年次生はデザインワークショップⅠを，4年次生は同Ⅱを選択することになる。

- ・必修科目であるデザイン基礎，建築設計Ⅰ～Ⅲは，設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- ・選択科目である建築設計Ⅳ～Ⅵ，設計演習Ⅰ～Ⅲは，設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

○ 5年次生以上（平成14年度以前入学者）

（旧）建築設計はⅠ～Ⅲまでが必修科目で，3年次後

期の（旧）設計演習Ⅰと4年次前期の（旧）設計演習Ⅱは選択科目である。（旧）設計演習Ⅰ，Ⅱは，将来，主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には，自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

- ・建築設計の科目は，必修，選択ともに同時受講はできない。（旧）デザイン基礎Ⅰ，Ⅱを修得しないで（旧）建築設計Ⅰ，Ⅱを，（旧）建築設計Ⅰ，Ⅱを修得しないで（旧）建築設計Ⅲと（旧）設計演習Ⅰを，（旧）建築設計Ⅲと（旧）設計演習Ⅰを修得しないで（旧）設計演習Ⅱを受講することはできない。すなわち，建築設計科目は，設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- ・その他，建築設計の受講に関する手続きの詳細は，学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2006年度建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者，事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は，駿河台校舎は5号館5階エレベータホール，船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。
- ・5年次以上で，（旧）デザイン基礎Ⅰ，Ⅱ，（旧）建築設計Ⅰ，Ⅱを修得していない者は，平成15年度から新・新カリキュラムがスタートしているため，表6に示すように科目名称が変更となっているので留意すること。事務担当に確認の上，再受講手続きを行うこと。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧（平成15年度以降入学者）

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 岡村	化学実験（一般・化学） 物理実験（一般・物理） 専門科目 振動実験（石丸，石垣） 構造部材（岡村） 構造強度（斎藤（公），岡田） 風洞実験（三橋，下村，広部） 測定法（中山）
建築生産実験（必修・1単位） 三橋	木材・コンクリート実験 （清水（五），中山，中田，飛坂） 鋼材実験（半貫，三橋）
建築環境実験（環境・構造コース：必修，他コース：選択；1単位）井上，橋本	騒音実験（井上，橋本，吉村，富田） 設備実験（蜂巢，八町） 光実験（関口，橋本，羽入，富田）
建築構造実験（環境・構造コース：必修，設計・計画コース：選択；1単位）岡田	構造安定実験（斎藤（公），岡田，宮里） 構造部材実験（白井，田嶋，清水（泰）） 土質実験（安達，山田）

（注）実験項目については，担当者の研究室へ，可否その他総合的な質疑は，担当責任者に問い合わせること

表6 建築設計科目対照表

学年	前・後期	従来のカリキュラム	新・新カリキュラム
		5年次生以上	1～4年次生
1年	前期	（旧）デザイン基礎Ⅰ	デザイン基礎
	後期	（旧）デザイン基礎Ⅱ	建築設計Ⅰ
2年	前期	（旧）建築設計Ⅰ	建築設計Ⅱ
	後期	（旧）建築設計Ⅱ	建築設計Ⅲ
		——	設計演習Ⅰ
3年	前期	（旧）建築設計Ⅲ	建築設計Ⅳ*1
		——	設計演習Ⅱ
	後期	（旧）設計演習Ⅰ	建築設計Ⅴ
		——	設計演習Ⅲ
	夏期集中	——	デザインワークショップⅠ
4年	前期	（旧）設計演習Ⅱ	建築設計Ⅵ
	夏期集中	——	デザインワークショップⅡ
	前・後期	（旧）卒業制作	卒業研究・設計*2

■ 全コース必修

*1 設計・計画，企画経営コースの学生は必修

*2 時間割では，5年次以上の登録のために「卒業制作」を設けてある

短期大学部建設学科

平成18年4月

■ はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか（＝履修計画）は個人に自由が与えられるとともに責任が生じる。各自が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据え履修計画をすることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画をすること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新入生の手引き」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生（表1）に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位（総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位（必修：26単位、選択：10単位）以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上）を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が一方に偏らず建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい制度（成績評価、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定）について概説し、さらに、建築設計と建築実験の受講に際する注意を述べる。

■ 成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。成績表はS、A、B、C、D、N（S：90点以上、A：80点以上、B：70点以上、C：60点以上、D：59点以下、N：認定）と表記される（表3参照）。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA（次節参照）が記載

される。なお、成績証明書にはD（59点以下）は表記されず、GPAは累積GPAのみの記載となる。

■ GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える（表3参照）。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてそ

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号（内線）
1年	竹澤 武重	船橋校舎 1号館 132	047-469-(5212)
	黒木二三夫	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5444)
	田所辰之助	船橋校舎 5号館 545・A	047-469-(5819)
2年	下村 幸男	船橋校舎 9号館 926・C	047-469-(5445)
	羽入 敏樹	船橋校舎 6号館 622・A	047-469-(5263)

表2 卒業に必要な単位

科目区分		卒業要件単位数
総合教育科目		12
基礎教育科目		7
専門教育科目	必修科目（15科目）	26
	選択科目	10
科目区分によらない任意の単位		7
総計		62

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント（平成17年度入学生に適用）

成績表上の表記		グレード・ポイント
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

これらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものを GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とする（表 4・(1) 式参照）。表 4 の例では、GPA は $19/9 = 2.11$ となる。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した全ての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPA には学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期 GPA と現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積 GPA がある。また、GPA の計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数 62 単位に含まれない単位(部外単位)
- 3) 理工学部 of 科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPA は次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

■ 履修科目の登録単位数の上限

前学期および後学期の 1 年間に履修登録する単位数は 50 単位以下でなければならない。また、前学期または後学期に履修登録できる単位数は 30 単位以下でなくてはならない。ただし、該当年次の前学期に取得した単位数が 21 単位以上であり、かつ GPA（グレード・ポイント・アベレージ）が 2.5 以上である場合には、年間 55 単位まで登録することが可能となる。4 月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限（50 単位）を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように、年間を通じた計画をすることが望ましい。

なお、登録単位数としてカウントしない科目は以下の通りである。

- 1) 卒業要件単位数に算入することのできない科目
- 2) サマーセッション・スプリングセッションにおける再履修用開設授業科目

■ 単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。

なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

■ 科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなくてはならない。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

■ 学芸員課程

学芸員とは博物館法第 4 条第 4 項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成 17 年度より理工学部 to 学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部 to 編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

■ 履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコースの選定は 2 年次初めに自由に選択することができる。1 年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どちらのコースで主に学んでいきたいのか、どちらのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される（表 5）。なお、所属コースによらず建築学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

■ 必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1年次に設置してある科目は原則として1年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について説明する。

1. デザイン基礎、建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、課題・中間提出日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、全ての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築設計Ⅰを受講するためにはデザイン基礎の単位を、建築設計Ⅱを受講するためにはデザイン基礎、建築設計Ⅰの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：935教室）に掲示される。全ての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
物理学Ⅰ	2	B	2	4
微分法	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学演習Ⅲ	1	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	コンピュータ支援構造解析	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	構造設計法	2	
	建築施工法	2	鋼構造	2	
	環境工学Ⅰ	2	振動工学	2	
	環境工学Ⅱ	2			
	鉄筋コンクリート構造	2			
	土質及び基礎構造	2			
デザイン	建築法規	2	都市計画概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	
	美術・様式史	2	インテリア計画	2	
	空間デザイン	2	卒業制作	2	
	デザイン・生産実習*	2	建築メディアデザイン演習Ⅱ	1	
	建築メディアデザイン演習Ⅰ	1			

*サマーセッション

□ 研究室所在一覧

駿河台校舎

3号館

3 F 白井研究室（白井・田嶋 331室）
三橋研究室（三橋 332室）

4号館

3 F 半貫研究室（半貫 432A室）
安達研究室（安達・山田 433A・B室）
清水研究室（清水 439A室）
空間構造デザイン研究室（斎藤・岡田 439B・C室）
4 F 建築教室事務局（栗原・矢萩 447室）
5 F 早川・蜂巢研究室（早川・蜂巢 453室）
対震構造研究室（石丸・石垣 454室）

5号館

5 F 設計講師室（大西・末岡 551室）
7 F 都市計画研究室（小嶋・根上・宇崎・川島 576A, 577A・B室）

高宮研究室（高宮・佐藤（慎） 578A室）
本杉研究室（本杉・佐藤（慎） 578B室）
横河研究室（横河 579A室）
柳田研究室（柳田 579B室）
8 F 建築音響研究室（井上・橋本・富田 582A, 583A室）
建築史・建築論研究室（片桐・大川・重枝 587A・B, 588A室）
今村研究室（今村 589A室）
宇杉研究室（宇杉 589B室）

9号館

5 F 岡村研究室（岡村 952B室）
6 F 八藤後研究室（八藤後 965B室）
渡辺研究室（渡辺 966A室）
佐藤研究室（佐藤（光） 966B室）
環境・情報研究室（関口 967B室）

船橋校舎

5号館

4 F 吉野研究室（吉野 545A室）
田所研究室（田所 545A室）
中山研究室（中山 545B室）
黒木研究室（黒木 546A室）
小石川研究室（小石川 546B室）

6号館

2 F 羽入研究室（羽入 622A室）

9号館

1 F （短）建設事務局（酒匂・松橋 915室）
2 F 森田研究室（森田 921B室）
岡田研究室（岡田 926A室）
内藤研究室（内藤 926B室）
下村研究室（下村 926C室）

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
環境の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法—作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
構造の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築基礎実験・建築実験	建築実験法	建築系学科 共著	彰国社	5,077	清水研究室 (439A)
	はじめてまなぶ ちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
応用力学Ⅰ,Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	安達研究室 (433A)
応用力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	書店
構造力学Ⅰ,Ⅱ	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
構造力学Ⅲ,Ⅳ	建築構造力学(下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	3,360	日本建築学会, 書店
構造力学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	建築構造力学演習(上,下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
鉄筋コンクリート構造Ⅰ,Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計—学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
構造設計法および演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 1999—許容応力度設計法—	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	斎藤研究室 (439C)
	建築空間構造				
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
構造とデザイン	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	建築構造のしくみ				
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	柱のない空間—スポーツ・イベント・展示ホール—	日本建築学会	彰国社	1,937	斎藤研究室 (439C)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
構造解析	建築技術者のための 有限要素法入門	佐藤稔夫 編著	理工図書	2,940	書店
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく 「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
建築材料Ⅰ, Ⅱ	建築材料用教材	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	清水研究室 (439A)
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	半貫研究室 (432A)
一般構法Ⅰ	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する) 構造用教材	日本建築学会	彰国社	2,730	書店
			日本建築学会	1,937	書店
一般構法Ⅱ	建築構法 構造用教材 図解テキスト 基本建築学	内田祥哉 日本建築学会 上杉 啓, 真鍋恒博 他	市ヶ谷出版	2,940	書店
			日本建築学会	1,937	
			彰国社	4,410	
地盤基礎工学Ⅰ, Ⅱ	基礎構造の設計 —学びやすい構造設計— 建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	3,600	安達研究室 (433A)
		日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎, 柳田 武 他	彰国社	3,150	書店
建築設計Ⅰ	建築設計教室 建築デザインの製図法 から簡単な設計まで 新訂 建築製図	勝又, 宮下, 本杉	彰国社	3,150	書店
		武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,415	書店
		日本建築学会	彰国社	1,680	書店
建築計画Ⅰ	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,675	書店
建築計画Ⅱ	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,675	書店
設計計画Ⅰ	建築計画を学ぶ 設計方法Ⅴ —設計方法と設計主体 デザインの鍵 建築デザインと環境計画	建築計画教材研究会 日本建築学会, 建築計画委 員会, 設計方法小委員会 池辺 陽 柏原士郎 編著	理工図書	3,675	書店
			彰国社	2,447	書店
			丸善	3,675	書店
			朝倉書店	5,040	書店
建築人間工学	建築設計資料集成 —人間 建築人間工学事典 人間工学の百科事典	日本建築学会	丸善	9,870	書店
		日本建築学会	彰国社	3,780	書店
			丸善		書店
都市計画Ⅰ, Ⅱ	都市の計画と設計 都市計画 第3版 日本近代都市計画の百年 「都市計画」の誕生	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	書店 (都市計画研でも 扱っています)
		日笠 端, 日端康雄	共立出版	3,990	
		石田頼房	自治体研究社	2,548	
		渡辺俊一	柏書房	3,670	

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
都市デザイン	都市の計画と設計 まちづくりデザインの プロセス	小嶋勝衛 監修 日本建築学会 編	共立出版 丸善	3,465 1,995	書店 (都市計画研でも) 書店
不動産企画及び演習Ⅰ、Ⅱ 建築企画設計	都市・建築・不動産企画 開発マニュアル	エクснаレッジ編集部	(株)エクснаレッジ	4,935	書店
建築法規Ⅰ 短大建築法規	基本建築関係法令集 上巻 (法令編) 平成 18 年版 建築法規用教材 2006 年版	建設省住宅局建築指導課 日本建築学会 (建築法制 委員会) 編	霞ヶ関出版 日本建築学会	未定 未定	書店もしくは指定さ れた日に購入 書店
建築法規Ⅱ	建築家の法律学入門 建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著 大森文彦 著	彰国社 大成出版社	1,995 1,785	ガイダンス時に案内 ガイダンス時に案内
建築史Ⅰ	日本建築図集 日本建築史序説	小林文次 他 太田博太郎	相模書房 彰国社	2,625 2,940	建築史研究室 (587A, B) 書店
建築史Ⅱ, Ⅲ	図説 近代建築の系譜 日本の近代建築(上, 下) 図説 近代日本住宅史 建築モダニズム 近代和風を探索(上, 下)	大川三雄 他 藤森照信 大川三雄 他 大川三雄 他 大川三雄 他	彰国社 岩波新書 鹿島出版会 (株)エクснаレッジ (株)エクснаレッジ	3,360 各651 3,360 3,150 各1,470	建築史研究室 (587A, B) 書店 書店 書店 書店
建築史Ⅳ	東洋建築史図集 新建築学大系 3 東洋建築史	日本建築学会 編	彰国社 彰国社	3,255 7,088	建築史研究室 (587A, B) 書店
環境工学Ⅰ	建築環境工学[改訂2版] 建築環境工学用教材 環境編	田中俊六, 武田 仁 他 日本建築学会	井上書院 日本建築学会	3,150 1,890	書店 書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画 建築環境工学用教材 環境編	木村 翔 日本建築学会 編	彰国社 丸善	3,570 1,937	井上研究室 (582A) 書店
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版 その他 (検討中)	日本建築学会 編 ——	技報堂出版 ——	4,725 ——	井上研究室 (582A) ——
建築設備Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	建築設備概論 環境工学用教材 設備編 空気調和設備の 実務の知識 給排水・衛生設備の 実務の知識 暮らしの技術としての 建築設備入門	吉田 燦 日本建築学会 編 空気調和・衛生工学会 編 空気調和・衛生工学会 編 吉田あきら 他	彰国社 日本建築学会 オーム社 オーム社 理工図書	4,200 1,937 4,434 4,414 4,148	ガイダンス時に案内 書店 書店 書店 書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建設学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取 扱 所
デザイン基礎	建築デザインの製図法から簡単な設計まで コンパクト建築設計資料集成(住居)	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	田所研究室 (545A)
		日本建築学会 編	丸善	7,035	書店
建築計画Ⅰ, Ⅱ	建築計画を学ぶ 第3版 コンパクト建築設計資料集成	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,500	ガイダンス時に指示
		日本建築学会 編	丸善	4,800	書店
建築法規	建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室 (1357)
建築史Ⅰ	日本建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545A)
建築史Ⅱ	西洋建築史図集 マトリクスで読む20世紀の空間デザイン	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545A)
		矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545A)
デザイン論	マトリクスで読む20世紀の空間デザイン 図説 近代建築の系譜	矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545A)
		大川三雄 他	彰国社	3,360	田所研究室 (545A)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉 監修	理工図書	4,893	内藤研究室 (926B)
建築材料	建築材料用教材 第2版	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	建築教室事務室 (915)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学 建築応用力学 改訂版	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
		小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,415	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習 応用力学演習問題解析法	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	ガイダンス時に指示
		西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学演習(上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学(下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習(下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	中山研究室 (545B)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 實	共立出版	2,940	岡田研究室 (926A)
構造設計法	新版 わかりやすい鉄筋コンクリート構造の設計 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,570	内藤研究室 (926B)
		日本建築学会 編	日本建築学会	5,880	書店
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会 編	日本建築学会	5,670	書店
木質構法	3階建てまでできる記入式2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
空間デザイン	空間 構造 物語 建築構造のしくみ 図解事典 建築のしくみ	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (546A)
		川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (546A)
		建築図解事典編集委員会 編	彰国社	3,990	黒木研究室 (546A)
環境工学Ⅰ	最新 建築環境工学 建築環境工学用教材 環境編 住宅の環境設計データブック	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
		日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画 建築環境工学用教材 環境編	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622A)
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
建築設備概論	建築設備概論 建築環境工学用教材 設備編	吉田 燦	彰国社	4,200	吉野研究室 (545A)
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
環境の計画と技術	人間住宅 住まいの環境学 福祉住環境コーディネーター 検定試験3級テキスト 最新 建築環境工学[改訂2版]	建築・都市ワークショップ 編	INAX出版	1,890	ガイダンス時に指示
		梅干野 晃	放送大学教育振興会	3,364	書店
		東京商工会議所 編	東京商工会議所検定 事業部検定センター	1,890	書店
		田中俊六 他	井上書院	2,940	書店
福祉住環境概論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 3級過去問題集一発合格	TAC福祉住環境研究会 編	東京商工会議所検定 事業部検定センター	1,890	ガイダンス時に指示
		東京商工会議所 編	TAC(株) 出版事業部	1,680	ガイダンス時に指示
情報処理	はじめて学ぶC言語入門	斎藤奈保子, 渡部由利, 宮本英美	実教出版	2,100	書店

平成17年度 各賞受賞者一覧

優等賞

三木 伸展 (高宮研究室)	伊東真知子 (都市計画研究室)	横山幸太郎 (野村研究室)
森山 卓也 (斎藤研究室)	水野 公義 (斎藤研究室)	永山 紗希 (短期大学部)
山部なつ紀 (野村研究室)	永井 佑季 (斎藤研究室)	梅原 智洋 (短期大学部)
高橋いずみ (若色研究室)	管野明日美 (野村研究室)	来栖 真弓 (短期大学部)

齋藤賞

中野 泰宏 「地域コミュニティ再生と町工場活性化計画 一大田区大森西地域の新しい産業振興のための複合型工場と集住体の設計」	指導：今村雅樹教授
惟 義英 「3次元 FEM 解析による既存 RC 造校舎の実大実験結果の検証および耐震性能評価」	指導：白井伸明教授

駿建賞

大前多恵子 「旧国立公衆衛生院跡地再生計画 ー新しい医療行為に対応した地域ホスピタルパークの計画ー」	指導：高宮真介教授
坪山 北斗 「二酸化炭素をトレーサガスとして用いる換気特性の評価に関する研究」	指導：早川 真教授
藤門 裕介 「向きの異なるカーディオイドマイクロホンを利用した到来音の方向検出」	指導：関口克明教授
鈴木信太郎 「特別養護老人ホームの介護動線からみた建築計画のあり方に関する研究」	指導：野村 歎教授

駿構賞

染谷 雅史 「石炭灰溶融水砕スラグのコンクリート用細骨材への利用に関する研究」	指導：友澤史紀教授
尾崎龍太郎 「動的非線形 3-D FEM 解析による RC 造ボックス型耐震壁の終局限界性能評価」	指導：白井伸明教授

桜建賞

〈卒業研究〉管野明日美・中山 聡子・山部なつ紀「健常高齢者が利用する地域余暇活動施設に関する研究 ー現状からみる建築計画の今後のあり方ー」	指導：野村 歎教授、八藤後 猛専任講師
市川 陽子・角川 聡一・清水 友美「景観法制定にもとづく地方自治体の景観条例の整備状況に関する研究」	指導：小嶋勝衛教授、根上彰生教授、宇於崎勝也助教授
高橋 宏臣・大矢 崇義・林 真希・堀 真澄「トグル制震装置を設置した伝統木造架構の実大振動実験」	指導：石丸辰治教授、石垣秀典助手
阿部 悠子・森山 有香「Hanging Model を用いたラチスシェルの形状決定手法に関する実験的研究」	指導：斎藤公男教授、岡田 章助教授
〈卒業制作〉三好 礼益「麒麟 stitch ー集合住宅再開発における森林共生建築群の提案ー」	指導：今村雅樹教授、大川三雄助教授
上野 建吾「モクミツ・サイセイ ～kyojima redevelopment project～」	指導：若色峰郎教授、渡辺富雄専任講師、中山 優教授
〈短期大学部卒業制作〉中川 知英「境界再生 ー中間領域を担う干満空間ー」	指導：小石川正男教授
柳橋 啓一「VISION 劇的な空間との出会い ーシェイクスピア劇場の現代的変奏」	指導：田所辰之助専任講師

奨励賞

〈修士論文〉吉川 美鈴「都市型消防署に付随した体験学習を含む防災拠点の設計 ー目黒消防署における建て替え計画の提案ー」	指導：高宮真介教授
岩崎 大祐「トラムステーションを活用した都市再生住宅と地域施設の設計 ー都電荒川線沿線の空地活用をとおしてー」	指導：高宮真介教授
倉崎 勝則「締固め改良地盤の改良範囲と沈下解析に関する基礎的研究 ー円形せん断土槽による振動台実験と残留変形解析ー」	指導：安達俊夫教授
〈卒業制作〉山田 修爾「ooya underground project」	指導：横河 健教授、安達俊夫教授

企画奨励賞

岡田 俊（三橋研究室）・田代 晴大（三橋研究室）・長谷川実佳（三橋研究室）
「豊洲市場開発」

主指導：三橋博巳教授

駿建コンペティション業績賞*1

雨宮 廣明

若色研究室

桜工賞

- 中田 弾 「千代田区において継続的にボランティア活動に貢献」 野村研究室
- 中林 仁子 「UR 都市機構の学生コンペ『ストリート・ファニチャー・サイン 学生プロポーザル』において優秀賞を受賞」 今村研究室
- 中村 豪・羽場なつみ 「日本建築学会関東支部第 6 回提案競技『美しくまちをつくる，むらをつくる』において優秀賞を受賞」 都市計画研究室
- 山城 亘 「サステナブル建築の分野で最も権威ある国際イベント『サステナブル建築世界会議東京大会（SB05 Tokyo）～地球温暖化防止に向けた世界建築会議』の学生部門組織委員として本学部代表で参加」 野村研究室
- 荒城 亮太・今井 丈夫・森山 卓也 「建築学科卒業アルバムの作製を中心的役割を担って遂行した」 斎藤研究室
- 國眼 一成・松波 圭亮・三好 礼益・山田健太郎
「国際建築コンペ『CisCu2005 “Revitalization of Gwangbok Street & PIFF Plaza, Busan, Korea”』で日本大学今村研究室の主設計者として参加し，2 等に入賞」 今村研究室
- 田上 沙織 「『子どもと一緒にデザインしよう会』に所属し，千代田区を中心に児童館・小学校でのイベントなどに学生ボランティアとして参加」 野村研究室
- 堀内 郁絵 「東京 12 大学バーチャルオープンキャンパス出演など，本学部の広報活動に多大な貢献をした」 岡村研究室
- 萩 竜一 「クラス幹事としてクラスをまとめ，各学部行事に貢献」 短期大学部
- 益子菜穂子 「クラス幹事としてクラスをまとめ，各学部行事に貢献」 短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*2

- 加藤 竜一 「江戸中期における銀座地区の地価構造に関する研究 ―「寛保・延享沽券図」を用いた分析を通して―」 指導：小嶋勝衛教授，根上彰生教授，宇崎崎勝也助教授
- 寶泉 立夫 「東京のウォーターフロントが担った機能とその空間分布の変遷に関する研究 ―震災復興期以降を対象として―」 指導：横内憲久教授，岡田智秀専任講師（兼任）

日本環境管理学会・木村賞*3

- 小菅 一史 「分譲マンション価格における日照・眺望の影響度に関する研究 ―重回帰モデルによる分析―」 指導：三橋博巳教授

*1 近江栄名誉教授から寄贈された基金による。

*2 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に，平成 8 年度で定年（平成 10 年 3 月 1 日死去）となられた佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金，平成 11 年度で定年となった浅香勝輔非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え，不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

*3 日本環境管理学会名誉会長 木村宏先生（元・専任教授）から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により，大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。（平成 7 年度新設，旧・日本環境管理学会会長賞）

学部長賞〈学術・文化部門〉

木村真由子 「平成 17 年度（第 38 回）照明学会全国大会優秀ポスター発表者賞」受賞による。 所属：関口研究室

平成17年度 修了生・卒業生 研究課題一覧

大学院博士後期課程

氏名	論文題目
主査：半貫敏夫教授 副査：三橋博巳教授・西尾文彦教授(千葉大学)・鮎川 勝教授(極地研究所) ——・建築学専攻・	
高橋 弘樹	南極昭和基地主要部風下域建物周辺の吹きだまり対策に関する研究
若色峰郎教授・本杉省三教授 ——・建築学専攻・	
矢野 裕芳	大規模公共体育館における多目的利用を考慮したアリーナ空間の設営と付属機能に関する研究 —国立代々木第一体育館における開催種目の事例調査を通して—

大学院博士前期課程

氏名	論文題目
安達俊夫教授 ——・建築学専攻・	
倉崎 勝則	締固め改良地盤の改良範囲と沈下解析に関する基礎的研究 —円形せん断土槽による振動台実験と残留変形解析—
彦坂 憲和	リサイクル材を利用した振動低減材に関する基礎的研究
細木 敬祐	山留め壁に作用する砂質土の土圧特性に関する実験的研究 —掘削側地盤の土圧変化の検討—
石丸辰治教授 ——・建築学専攻・	
石井 剛士	ゴム球免震システムの設計手法に関する研究 —ゴム球免震部材の復元力特性のばらつきによる性能の検討—
大倉 久礼	小規模木造建築物の地震時跳躍挙動に関する研究
長谷川 純	慣性質量効果を含む系の応答性能図表に関する研究
二見 泰史	柱傾斜復元力特性のモデル化に関する基礎的研究
井上勝夫教授・橋本 修助教授 ——・建築学専攻・	
貝瀬 智昭	小学校建築の主要空間における音環境の実態と改善法に関する研究
菅沼 太郎	非音楽専用空間での演奏に影響する騒音及び反射音の条件
柳沼 勝夫	RC系共同住宅における乾式二重床構造の重量床衝撃音発生系に関する研究
山口 琢二	ノイズ残響音場における音場特性を考慮した電気音響調整法による拡声品質の改善方法の検討
渡邊 隼也	都市内公園緑地の暑熱環境緩和効果に関する実験的研究
今村雅樹教授 ——・建築学専攻・	
岩下 陽子	横須賀市浦賀造船所跡地再生計画 —地域活性化計画のための近代産業遺産の動態保存と交通複合体の設計—
江泉 光哲	都市型複合体としての新宿区戸塚区民センターの設計 —高田馬場駅前と戸塚地域のコンテクストからなる公共空間の設計—
中野 泰宏	地域コミュニティ再生と町工場活性化計画 —大田区大森西地域の新しい産業振興のための複合型工場と集住体の設計—
中林 仁子	新しい居住空間と近隣コミュニティを形成する都市型集住体の設計提案 —都営池尻2丁目アパート建て替え計画の提案—
奈良 賢史	青森県鶴田町営駅東団地建て替え計画 —北国型過疎地域における地域施設と複合型集住体の設計—
山田 大	演劇活動の場としての旧四谷第五小学校再生計画 —新宿花園神社と連動する大衆演劇を核とした創造拠点の設計—

片桐正夫教授		・建築学専攻・
菊池 瑠依	秋田県における酒造場の建築配置の変遷に関する研究 —酒造技術の発展と建築配置の変遷との相関性の分析を中心として—	
戸井田 顕	言説と作品における前川國男の「近代建築」観に関する研究	
平田 泰祥	東京の水辺空間における船宿の変遷と空間構成に関する研究 —東京柳橋周辺に現存する事例を中心とする考察—	
渡辺 未央	雑誌『建築世界』（1907～1944）を中心とする「建築世界社」の活動に関する史的研究	
小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授		・建築学専攻・
武田 雄次	商業地域における夜間街路景観の特性に関する研究 —都心型繁華地区のサブストリートを対象として—	
立唐 寛之	天空率規定の導入が都市環境に与える影響に関する研究 —適用建築物の実態分析を通して—	
中村 豪	絶対高さ型高度地区を活用した建築物の高さ制限に関する研究	
羽場なつみ	都市計画マスタープランの運用実態と活用方策に関する研究 —東京都23区調査に基づいて—	
斎藤公男教授・岡田 章助教授		・建築学専攻・
門脇 一仁	張弦シザーズ構造におけるメカニズムの推移とジョイントの挙動に関する研究	
坂井 初	樹木構造の「構造形態」に関する基礎的研究	
坂本憲太郎	レンズ型二重空気膜構造の動的基本特性に関する研究	
清水 建吾	独立型スタンドルーフの構造計画的考察	
滝本 秀明	内部に骨組膜構造を有する密閉型空気膜構造の基本的性状の把握	
千田 健二	Tensegric Truss Type IIIの壁面構造体への適用性に関する研究	
豊嶋 昭彦	薄板材を用いた木質HP曲面の基礎的研究 —部材構成が荷重伝達メカニズムに及ぼす影響—	
豊田 良平	F. Otto 型ラチスシェルの形状決定手法及び構造特性に関する基礎的研究	
長嶋 明大	集積型木質吊屋根構造における導入初期張力と構造特性に関する研究	
清水五郎教授		・建築学専攻・
平野 修也	木質系箱形集成部材の力学的性状ならびにプレストレスによる性能の向上に関する基礎的研究	
白井伸明教授		・建築学専攻・
五十嵐一洋	実験データベースおよびFEM解析に基づくRC造有孔梁のせん断耐力および抵抗機構に関する検討	
尾崎龍太郎	動的非線形3-D FEM解析によるRC造ボックス型耐震壁の終局限界性能評価	
惟 義英	3次元FEM解析による既存RC造校舎の実大実験結果の検証および耐震性能評価	
中村 隆大	高精度ひび割れ幅計測に基づくRC梁部材の残余性能評価に関する研究	
関口克明教授		・建築学専攻・
木村真由子	空間における光のやわらかさの評価	
藤門 祐介	向きの異なるカーディオイドマイクロホンを利用した到来音の方向検出	
渡部 真己	室内音場で知覚されるラウドネスとSound Strength Gの関係	
高宮眞介教授		・建築学専攻・
石井 秀明	日本橋人形町における立体街区型商店街の提案	
岩崎 大祐	トラムステーションを活用した都市再生住宅と地域施設の設計 —都電荒川線沿線の空地活用をととして—	
上原 麻美	木造住宅密集市街地及びその周辺における境界領域の再構築 —百人町3丁目を事例として—	
大前多恵子	旧国立公衆衛生院跡地再生計画 —新しい医療行為に対応した地域ホスピタルパークの計画—	
佐々木亜美	市川市千鳥町地区再生計画 —公園との共用をめざした「追想公苑」と葬斎場の設計—	
二瓶 士門	多摩ニュータウン縮小計画 —諏訪二丁目団地の再生を通して—	

友澤史紀教授		・建築学専攻・
染谷 雅史	石炭灰溶融水砕スラグのコンクリート用細骨材への利用に関する研究	
野村 歡教授		・建築学専攻・
神山 郁子	高齢者居住施設における共用空間の空間構成と対象者の特性による使われ方に関する研究	
鈴木信太郎	特別養護老人ホームの介護動線からみた建築計画のあり方に関する研究	
中田 弾	小学校を子どもの居場所・遊び場として活用するための建築計画に関する研究 —教職員・児童・保護者の意識からみる小学校開放の課題と提案—	
三浦康太郎	パーキンソン病に対応した住環境整備に関する研究	
山城 亘	障害のある学生が高等教育を受けるための建築環境整備の現状と今後の課題	
早川 眞教授		・建築学専攻・
坪山 北斗	二酸化炭素をトレーサガスとして用いる換気特性の評価に関する研究	
半貫敏夫教授		・建築学専攻・
穴戸 武志	迎角 45°の吹雪流中の建物模型周囲に発生する吹き溜まりに関する研究	
横河 健教授		・建築学専攻・
福原 亮	墨田区京島三丁目・駐車場操作から導き出す木造密集市街地の住宅群更新計画 — car-free housing による歩行者ネットワークの形成—	
吉川 美鈴	都市型消防署に付随した体験学習を含む防災拠点の設計 一日黒消防署における建て替え計画の提案—	
若色峰郎教授		・建築学専攻・
雨宮 廣明	墨田区の産業振興を目指した情報交流施設の設計	
福山 誠士	豊島体育館および旧千川小学校の再生計画 —スポーツを核とした多世代交流施設の設計—	
矢崎 貴大	地域の交流拠点としての目黒区民センター再生計画	
宇杉和夫助教授		・建築学専攻・
田口 徹也	住宅におけるコミュニケーション・シーンに関する基礎的研究 —映画にみる住宅空間シーンの構成及び分析—	
小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授		・不動産科学専攻・
遠藤 広正	既成商業地の再整備に関する研 —地価分析を中心として—	
加藤 竜一	江戸中期における銀座地区の地価構造に関する研究 —「寛保・延享沽券図」を用いた分析を通して—	
五味 新治	立体都市公園の整備促進に関する研究	
関 信行	オフィスコンバージョンによる市街地再生の可能性に関する研究 —東京神田地域の実態・分析を通して—	
平木陽一郎	相続問題に対処した市民緑地の保全方策に関する研究 —東京都練馬区を対象として—	
三橋博巳教授		・不動産科学専攻・
小菅 一史	分譲マンション価格における日照・眺望の影響度に関する研究 —重回帰モデルによる分析—	
横内憲久教授		・不動産科学専攻・
田村麻衣子	超高層マンション居住者の交流を促す共用施設のあり方に関する研究	
寶泉 立夫	東京のウォーターフロントが担った機能とその空間分布の変遷に関する研究 —震災復興期以降を対象として—	
渡辺 太樹	「虹の松原」における松林の景観価値の生成に関する研究 —管理内容と景観価値との関連性—	

学部

氏名の右肩 *印は企画経営コース。

氏名

論文題目

安達俊夫教授・山田雅一助手

- | | |
|-------|--|
| 高田 裕也 | リサイクル材を利用した振動低減材の実験的研究
— SHAKE による振動低減効果の解析的検討— |
| 田口 智也 | 円形せん断土槽を用いた締固め改良地盤の改良範囲に関する実験的研究
— GCP による複合改良地盤の沈下挙動と応答特性— |
| 竹淵 竜郎 | |
| 田屋 修 | |
| 竹中 伸祐 | 広範囲なひずみ領域における地盤材料の非線形モデルに関する基礎的研究
— 砂の非排水繰返しせん断挙動の解析モデル— |
| 田仲 源基 | 建物と地盤の動的相互作用に関する実験的研究 —単純化モデルによるオンライン応答実験— |
| 中垣 元 | |
| 津留崎雄大 | 発泡成型 EPS 板による交通振動低減工法の実験的研究 |
| 高山 進介 | |
| 浜田 信也 | 山留め壁に作用する土圧挙動に関する基礎的研究
—三軸試験装置による応力経路の自動制御システムの開発— |
| 和田 大作 | 宅地地盤の簡易液状化予測法に関する基礎的研究 |
| 石崎 薫 | セメント改良砂の強度・変形特性に関する研究 —限界状態強度の評価方法— |
| 内埜 克哉 | 災害時の情報伝達の確保に関する研究 — 2004 年新潟県中越地震の事例— |



石丸辰治教授・石垣秀典助手

- | | |
|-------|---------------------------|
| 安藤 建吾 | 強震下における小規模木造建築物の挙動に関する研究 |
| 小林奈都子 | ゴム球免震部材の性能評価に関する研究 |
| 鞠子 佳美 | |
| 大矢 崇義 | トグル制震装置を設置した伝統木造架構の実大振動実験 |
| 高橋 宏臣 | |
| 林 真希 | |
| 堀 真澄 | |



井上勝夫教授・橋本 修助教授・富田隆太助手

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 大室 諒知 | 集合住宅の住まい方における生活実感の意識調査 |
| 國吉 葉苗 | |
| 小林 彩 | 非音楽専用空間において「演奏のしにくさ」の改善に寄与する反射音の条件 |
| 渡邊 剛 | |
| 佐藤 純也 | 居住性からみた住宅床の評価に関する研究 |
| 多賀 未来 | |
| 島田 佳奈 | 都市内公園緑地における暑熱環境緩和効果の実態に関する研究 |
| 落合まりこ | |
| 関根 嘉昭 | ノイズ残響音場における電気音響調整法による拡声品質の改善効果に関する検討 |
| 上條 香織 | |



中野 貴之	}	乾式二重床の重量床衝撃音対策方法の検討
山本 貴志		
永井 丈裕	}	建築環境における磁場変動の基礎的検討
山根 歩		
永田 純一	}	音による移動支援設備計画に関する基礎的研究
鈴木 美雪		
山下 祐子	}	小学校建築の主要空間における音環境の実態調査に関する研究
渡邊 智子		

今村雅樹教授

狩野 広行	横丁空間の継承に関わる研究 —文脈のある都市が他の物に置き換わる際、私たちは何をするのか—
北島 麻衣	商業施設の形態のあり方 —宮下公園での商業施設と公園の融合—
國眼 一成	都市における清掃工場の構成手法について —動線計画の巧みな配置による周辺環境との共存—
小関 恒司	再開発手法としての商店街 —下北沢モデルの形成—
新川 香	経験・視覚・空間
関口 翔	首都東京の負の遺産に関する研究 —「量」「塊」「集積」「群」の建築的展開—
松波 圭亮	図書館というビルディングタイプの新しい空間のあり方 —都立日比谷図書館における考察—
三好 礼益	密集住宅地における POCKET PARK NETWORK の可能性 —東京都世田谷区太子堂地区を通して—
山崎 真実	都市における商業建築のあり方について —新宿ゴールデン街の再生計画—
山田健太郎	サインと建築計画 —サインの種類と建築、景観に及ぼす影響—
小田切絵美	タワーマンションと長屋建てのコントラストについて



片桐正夫教授・大川三雄助教授・重枝 豊助教授

江尻 麻美	武田五一の住宅作家としての功績
齊藤 功男	日本における環境問題に対する建築界の取り組みの基礎的研究
櫻庭 大輔	A・レーモンドの言説に見る「理想の建築家像」に関する考察 —2つの祖国と職能観—
佐藤 充広	近代日本における仏寺建築の展開と背景
下山 修平	建築家 黒沢隆の建築観 —「個人の時代」を「個室群住居」を通して読み取る—
鈴木 晃洋	日本人建築家による満州国の首都長春における建築活動に関する一考察
田口 知弘	アンコール・ワット、バンテア・イサムレの参道における設計手法に関する一考察 —ナーガの欄干部の束割から—
永松 大作	伝統的建造物保存地区における法的規制の実態についての一考察 —城下町秋月を実例とした保存活動実践に関する基礎研究—
濱田 珠実	金沢の町家のファサード形成過程に関する一考察
平松 雄太	禅宗様寺院建築研究手法に関する一考察 —関口欣也博士、太田博太郎博士による代表的論文を中心として—
藤巻 学	横浜関内地区における近代建築の変遷とその特徴 —公共建築を中心とする考察—
飯田智由紀	平安期における借景の基礎的視覚表現法について —平等院と浄瑠璃寺における視覚表現手法の比較—
吉川 和江	辰野金吾の目指した建築家像 —建築家と職能の確立—
今井 佑介	Banteay Samre における伽藍の回廊の構成過程について
高木 愛子	日本における近代建築の保存活用の現状と問題点 —3つの視点「保存・活用・主体組織」の現状と問題点—
村木 亨	アンコール寺院遺跡の外向きの回廊の特徴について
今福 康英	12世紀のクメール建築における欄干の接続部に関する基礎的研究



小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授



- | | | |
|--------|---|---|
| 井組 正嗣* | } | バリアフリーマップの整備状況に関する研究 —東京都 23 区の比較分析を通して— |
| 大熊 紀之 | | |
| 大島慎太郎 | | |
| 市川 陽子* | } | 景観法制定にもとづく地方自治体の景観条例の整備状況に関する研究 |
| 角川 聡一 | | |
| 清水 友美* | | |
| 伊藤 智也 | } | 新宿区歌舞伎町におけるファサード構成に関する研究 |
| 岡田 俊輔 | | |
| 末宗 一郎 | | |
| 伊東真知子* | } | 建築協定による住環境の整備・保全が地価に与える影響に関する研究 |
| 岩淵 充勲* | | |
| 遠藤 哲也* | | |
| 岩田 知久 | } | 夜間の街路景観構成要素の実態に関する研究
—原宿・表参道, 新宿・靖国通り, 銀座・中央通りを対象として— |
| 松尾 早紀 | | |
| 杉山 遥佳 | | |
| 木村 香* | } | 「まちなみウォーク」の企画と実施によるまちのイメージ形成に関する研究
—茗溪通り商店街イベント事業をととして— |
| 平野 理美* | | |
| 横田 絵美* | | |
| 小林都桃美 | } | 都市公園における指定管理者制度導入の実態と課題に関する研究 |
| 鈴木 景太 | | |
| 高橋 智 | | |
| 本間 章久 | } | 都市における「座り」空間に関する研究 |
| 金 永吉 | | |
| 榊原 直樹 | | |
| | | まちづくり人材育成講座受講生の地域のまちづくり活動に関する研究
—浜松まちづくり人材育成講座受講生を対象として— |

斎藤公男教授・岡田 章助教授



- | | | |
|-------|---|--|
| 阿部 悠子 | } | Hanging Model を用いたラチスシュルの形状決定手法に関する実験的研究 |
| 森山 有香 | | |
| 荒城 亮太 | | 日本大学理工学部における構造教育 |
| 今井 丈夫 | | HP・平面形状の挙動に関する実験的研究 |
| 大森 慎司 | } | ガラスの構造化に関する実験的研究 |
| 永井 佑季 | | |
| 岡部 謙一 | | Tensegric Truss Type III の座屈性状に関する実験的研究 |
| 小山 聖史 | | スタジアムルーフにおけるスポークホイール構造に関する研究 |
| 小松 泰造 | } | 構造家の形態に関する思想の分析 |
| 島川 智行 | | |
| 櫻井 巧 | | 張弦梁構造における中間クランプ金物の滑りに関する実験的研究 |
| 柴山 裕則 | | 樹木構造の形態決定に関する実験的研究 |
| 高橋 哲平 | | 継手の力学的性能に関する実験的研究 |
| 玉川 悠貴 | | Aspension Dome の基本特性に関する研究及び新システムの提案 |
| 古居 慧 | | ETFE フィルムの材料特性に関する基礎的研究 |

水野 公義	膜面の振動性状における基礎的研究
森山 卓也	多角形フレームで構成された展開型多面体建築に関する研究
山崎 俊輔	建築における構造デザインについて文献的調査及び研究

清水五郎教授

青木 孝仁	}	木質系箱形集成部材の力学的性状に関する基礎的研究
大澤 一寿		
坂本 開		
小森谷遼子		
田中 紗綾		竹材の引張性状に関する実験的研究
豊倉 梓		EM の性質調査と建築材料への利用法研究
奈良亜矢子		アンコール遺跡の砂岩に関する研究
前田 智祐	}	大谷石の物性と耐久性向上に関する研究
國安 瑛		



白井伸明教授・田嶋和樹助手

青木 優子	ひび割れ幅計測結果に基づく RC 梁部材の損傷評価 (その 1) スキャナを用いたひび割れ幅の自動計測
徳丸 明希	ひび割れ幅計測結果に基づく RC 梁部材の損傷評価 (その 2) 経験部材角推定式の提案
中野 喜夫	ひび割れ幅計測結果に基づく RC 梁部材の損傷評価 (その 3) 塑性変形能評価式の有用性の検討
石森 昭行	ひび割れ幅計測結果に基づく RC 梁部材の損傷評価 (その 4) 提案した損傷評価式の妥当性の検証
小川 あい	鉄筋コンクリート造建物の損傷評価に関する研究 (その 1) 既往の文献調査と問題点
吉岡しず香	鉄筋コンクリート造建物の損傷評価に関する研究 (その 2) 既存 RC 造校舎の耐震性能評価に関する FEM 解析
加藤雄二郎	高強度補強金物を用いた鉄筋コンクリート造有孔梁の実験的研究 (その 1) 既往の研究成果と各構造因子の比較検討
金光 秀明	高強度補強金物を用いた鉄筋コンクリート造有孔梁の実験的研究 (その 2) 有孔梁のせん断耐力に関する実験
土屋 良徳	面外力を受ける RC 平板の曲げ挙動に関する FEM 解析
橋本 浩	3次元 FEM 解析による RC 橋脚の破壊性状に関する検討 —ファイバー法との比較—
宮路 直樹	ファイバー法を用いた RC 造 3 層骨組の地震応答解析 —解析対象試験体のモデル化—



関口克明教授・吉野泰子(短大)教授・羽入敏樹(短大)専任講師

稲毛 大輔	}	室内音場における空間印象評価のための継時・空間マスキングの閾値測定 その 1 マスキングに関する既存研究と聴覚事象の定義について その 2 聴覚事象の閾値とその前後の音像の変化についての測定
宮島 瑞季		
一宮 陽子		
大野 裕明		マドと照明の関係からみる室内の光環境の変遷
川村 謙介	}	移築再生された酒蔵における温熱環境の実態調査 その 1 温熱環境測定結果と評価法に関する検討 その 2 実測調査とシミュレーションによる検討
川崎 亨		
小林 拓生		
佐久間一樹	}	視覚表示同士による差が情報取得に与える影響 —同情報の分類 其の 1— —同情報の分類 其の 2—
竹内 麻珠		



新名 威晴	}	夜間街路における建築からの漏れ光に関する研究
中里 恭宏		その1 夜間の街路における現状の把握 その2 光の分布による印象評価
永井真理子		高齢者の居住環境における個人曝露温度の実態と身体ストレスに関する調査研究
星野 美麻	}	伝統民居の空気質に関する研究
上原 有記		その1 空気質の同定について その2 茅葺民居における燻蒸実験
米原 英之		移築再生された酒蔵の執務空間における光環境の実態と改善手法に関する検討

高宮眞介教授・佐藤慎也助手

會田 達朗	下町における川の形状を残した街並みの研究 —台東区谷中2丁目・文京区千駄木2丁目を事例に—
今田 明宏	住宅敷地内の外部空間の利用に関する研究
梅林 孝治	小住宅における内部階段に関する研究 敷地面積 20 坪以下の専用住宅を通して—
漆間 陽子	東京港における海浜公園の形態・機能特性に関する研究
大戸 厚史	住宅の内部空間に見る void の研究
片岡 愛	建築再生（コンバージョン，リノベーション）に関する事例研究
加藤 暢	図書館における IT エリアの導入と配置計画に関する研究
朔 永吉	アクトメ図から見る Herzog & de Meuron の素材の使い方とディテールについての研究
佐藤 毅	学校建築史から見る自由学園に関する研究
佐藤 直樹	大規模再開発におけるオープンスペースの空間特性および構成についての研究 —最近のプロジェクトを通して—
三木 伸展	公衆トイレのあり方に関する研究
村木 計	住宅断面計画に見る室内気候に関する研究
山田 洋平	街路空間における滞留点についての研究



友澤史紀教授

下村 和也	}	各種建築資材のマテリアルフローに関する研究
宮崎 紘光		
古橋 武士	}	遅延剤を用いたコンクリートの凝結特性およびその予測式
細貝 孝一		
由比 克憲	}	石炭灰溶融水砕スラグ細骨材に関する実験的研究
荒井 春樹*		
黎 詩敏		建築設計ブリーフ／ブリーフィングに関する事例研究
薄田 益充	}	マンションの維持管理・長期修繕計画における計画情報の実態調査
中村 浩之		



野村 歡教授・八藤後 猛専任講師

石井 明*	こどもの視点から見たピクトグラムによる情報伝達に関する研究 —現状のサイン調査からより理解しやすいピクトグラムの提案—	
岩田 真幸	}	公園・広場における健康遊具の現状調査
岡部 雅聡		
小野寺亜希		福祉農園についての研究 障害者も利用できる市民農園の実態と今後の可能性について



管野明日美
中山 聡子
山部なつ紀
小山 夏季
是安 崇史
関根 亜美
田上 沙織
渡邊 学
花房 健
松田 優一
山田 弘明
渡邊 智康
横山幸太郎
柿本 千枝
河内麻美子

健康高齢者が利用する地域余暇活動施設に関する研究 —現状からみる建築計画の今後のあり方—

総武線の交通結節点を持つ駅のバスターミナルに関する研究 —交通バリアフリー法を背景として—
高年者からみたハード面の障壁の特性に関する研究 —JR 船橋駅周辺をケーススタディとして—
事業所内保育施設の現状と安全計画に関する調査

フリースクールなどの施設に関する研究 職員から見た建築的現状と課題

杉並区高円寺地区をモデルとした交通バリアフリー法基本構想重点整備地区のあり方に関する研究

屋外休憩設備に関する研究

鉄道駅における高齢者・障害者の移動連続性およびサインシステムに関する研究

キッチン空間のバリアフリーに関する研究

病院の待合室・受付付近の環境についての研究 —患者の立場で考えた病院内の癒しの空間とは—

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師

安倍 高広
安藤 雅規
飯泉 宣洋
川端 有里
森山 和明
国田あゆみ
高橋 舞帆
猪狩 昌彦
今井 雅彦
植田雄太郎
国井 亜海
八鍬 玲奈
岩浪 健太
磯田 公介

二酸化炭素をトレーサガスとして用いる換気実験の精度に関する研究

混合・置換切り替え空調方式を持つ講堂の換気効率に関する実験的研究

ソーラーチムニーの熱取得量の予測計算モデルの研究 —船橋校舎 14 号館のソーラーチムニーについて—

日本大学理工学部船橋 14 号館ソーラーチムニーの性能評価に関する研究

頸髄損傷者の住宅温熱環境に関する研究 —夏季および冬季の実測調査—
(超) 高層建物の自然換気導入に関する研究 —高所空気汚染の鉛直分布—
高層建築の自然換気のための壁面風圧均等化の研究 —ダブルスキン建築の内壁面の風圧均等化—

天空率評価による容積率増加の建物が街路空気質に及ぼす影響に関する実験的研究

混合・置換切り替え空調方式を持つ講堂の居住環境に関する実験的研究
—CST ホールの中間期のアンケート調査結果—

理工学部駿河台校舎 7 号館の水蓄熱システムの改良に関する実験的研究

大学校舎におけるビル用マルチ空調機の一斉一旦停止の省エネルギー効果
—理工学部駿河台校舎 9 号館の事例—

実験動物施設の環境制御に関する研究 動物飼育室における環境モニタリングに関するアンケート調査



半貫敏夫教授・秋山 宏教授

栗山 城司
桑野 克彰
坂口 久司
古谷 純平
安藤 健太
前田 肇*
小林 靖伸

建物模型周囲の風の流れ場に関する風洞実験と CFD シミュレーションとの比較

地吹雪運動の実験的観察と数値解析との比較

試験温度をパラメータとした実大鋼構造柱梁接合部の破壊性状に関する実験的研究

高床式建物模型周囲の吹き溜まり生成実験 —吹雪風洞実験と南極実測との比較—

RC 梁の吸収エネルギーに着目した損傷評価



坂本 賢二 高軸力下における鋼構造ピン柱脚の変形性能に関する実験的研究 ―ピン柱脚の変形性能に関する予備解析―

三橋博巳教授

- 大室 寿仁 住宅性能表示制度に関する研究
- 岡田 俊* 中心市街地の活性化における研究 ―印西市木下地区におけるコンパクトな街づくりについて―
- 海津 孝行* 超高層建築による風環境変化に関する研究 ―数値シミュレーション解析からの検証―
- 田代 晴大* 太陽光発電導入促進における制度に関する研究
- 橋本龍太郎* 不動産投資信託（J-REIT）の資産配分の効率化に関する分析
- 長谷川実佳* 防災船着場整備計画に関する研究 ―江東区内防災船着場について―
- 福西 祐樹 世界遺産と鎌倉 ―世界遺産登録と新しい観光スタイルの提言―
- 松本 康嗣* 大学のファシリティマネジメントの現状と課題
- 坂本 丈実* まちづくりを支援するファンド・制度に関する研究



本杉省三教授・佐藤慎也助手

- 加畑 亮子 芸術の変貌と美術館建築の変貌 ―芸術の日常化は美術館に多様性を求める―
- 河地 希美 住空間におけるこどものスペースの研究 ―こども部屋の位置づけと利用状況について―
- 河内仁以奈 都市型キャンパスと郊外型キャンパスにおける学生生活の環境満足度に関する比較考察
―日本大学理工学部駿河台校舎と船橋校舎を事例として―
- 小林 智紀 非営利団体による公共文化施設の管理運営に関する研究 ―官ではない団体による公共サービスの展望―
- 關 康久 住宅作品のファサードに関する研究
- 丹下 聖 現代建築におけるガラスの研究
- 西内 雄紀 住み手の評価から見る木造密集市街地の更新に関する研究 ―京島まちづくり事業の実態調査から見る考察―
- 西川 幸宏 地域美術館における教育普及活動とその活動場所に関する研究
- 長谷川真之 生涯学習センターのサイン計画に関する基礎的研究
―利用して分かった設計時に計画されたサインと実際とのズレについて―
- 山下 慎二 新たな環境共生住宅像に関する研究 ―都市中心部における土地の高度利用から考える―
- 前田 有一 展示に介入する休憩要素空間から見る美術館についての考察
- 渡辺 真元 集合住宅のバースペクティブ ―都市部における集合住宅―



横河 健教授

- 小坂 和生 サステナブル・デザインと建築について
バックミンスター・フラーの残した現代に通じる建築的課題の分析を手がかりに
- 小林 猛 美術館建築への展示スペースと収蔵スペースの関係 独立行政法人国立美術館に見る展示と収蔵の関係
- 新井 匠 都営目黒バス営業所の再構築 時間軸と利用率の変化から探るバス車庫の有効利用法
- 石川 直史 環境共生型集合住宅の設計 既存樹木を生かしたシステムの提案
- 伊藤 甫 教育ルネッサンス ―教育問題に対する建築空間の可能性―
- 道家 祥平 建築の非解体
- 安元 直紀 外部空間からの都市デザイン解析 日本橋川をケーススタディとした研究
- 山田 修爾 宇都宮市大谷町における採掘事業による巨大空間の有効利用について
採掘ルールから見られる地下空間の実態
- 見米 清人 メルヘンとリアリティの境界 渋谷の歩行空間編
- 原田 創一 都市文脈の継承と維持 ―都市文脈をめぐる行政と住民による紛争の解決の模索―



若色峰郎教授・渡辺富雄専任講師

- 小澤 良太 生まれ変わる学校建築 ―東京都特別区における学校跡地活用事例を通して―
- 木村 勇 建築家／Diller+Scofidio（ディラー＋スコフィディオ） ―二人の作品が現代社会に問いかけるもの―
- 近藤 枝里 鎌倉農協連即売所の実態調査 ―市場空間の特徴と魅力に関する研究―
- 堺 晋輔 コルビジエのラ・トーレットの空間について
- 佐藤 匠 世代間交流からみた幼老複合施設に関する研究 ―少子高齢化を背景とした複合施設のあり方―
- 清水 啓輔 日本のサッカー専用スタジアムにおける付帯設備の実態
―Jリーグ Division1・2 使用スタジアム 8 会場を例に―
- 高橋いずみ コーポラティブハウスにおけるコミュニティの形成及びインフィルの変化・方向性
- 田辺 卓爾* 住宅地における町並み景観について ―三つの事例を通して―
- 森本 寛之 建築家の住宅作品が持つ潜在的防犯効果 ―住宅（地）におけるセキュリティデザインの可能性―
- 吉見 亮平 横浜市の生涯スポーツ振興とスポーツ施設の建築計画に関する研究
―横浜市スポーツセンター 18 館の事例調査を通して―
- 伊藤 智範 公開空地の空間構成についての研究 ―新宿の高層ビルの事例調査を通して―
- 上野 健吾 新建築住宅設計競技についての一考察
―テーマとその時代背景／(株)新建築社・(社)日本建築学会のアイディアコンペを対象として―
- 原 昌文 集合住宅における共用庭についての研究 ―都内三つの事例を通して―
- 三浦 弘之 時代変化に伴う公団住宅の住戸計画の変化 ―公団住宅の変化から見る集合住宅の変化と展望―
- 田代 豪 店舗建築の空間照明に関する研究 ―南青山の店舗建築調査を通して―
- 西山 紘司 UR 都市機構における SOHO 対応型集合住宅に関する研究
- 水戸 裕樹 オープンスペースの成り立ちとその意義について ―学校建築に関する研究―



宇杉和夫助教授

- 齋藤 弘樹 映画シーンによる住宅空間シーンと新しい住まい像に関する研究
- 澁谷 淳 多様な機能を備えた小規模都心型ホテルの研究 ―ホテルクラスカの事例を踏まえて―
- 小林 可奈 都市の中の水辺空間と建築空間の融合と再生について ―上野浅草下町エコミュージアム構想―
- 村上 真由 新川沿いの集合住環境の現状と提案
- 山中 悠吾 上十条 ―坂と階段と細街路が作る、人間的スケールの街の研究
- 大石 貴俊 郊外都市における細街路建築指導の実状と路地空間の活用・保全に関する研究
―立川市・上尾市をケーススタディとした調査・分析―
- 早坂 麻里 ワークショップ方式による蔵のある街並み再編成の取り組み ―栃木市平柳河岸再生の提案―



岡村武士助教授

- 小川 真美 MUSEUM の実際に関する研究 歴史的観点からみる MUSEUM
- 堀内 郁絵 MUSEUM の実際に関する研究 実例からみる UNIVERSITY MUSEUM
- 吉田 沙織 MUSEUM の実際に関する研究 計画的観点からみる MUSEUM
- 阿部 祐子 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究 NMC の力学的性質（Type VI）
- 市川 直樹 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
複合材置換率を変化させた NMC の力学的特性
- 谷岡 祐治 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
微視的観察による複合材の有効性
- 大崎 慎弥 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
NMC の内部機構と強度との関係



- 一杉 亮 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
NMCの強度要因と微視的観察の概要
- 加藤 剛司* 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
NMCの実用化に向けた総合評価システムの開発

柳田 武専任講師

- 上尾 暖 サイン計画と日本語の形
- 浅野 高誠 古民家の保存と再生に関する研究
- 伊藤 孝興 百貨店の成立と将来像の模索
- 今泉 竜太 回遊式庭園に見られる「シークエンス」の考察
- 大沢 佑貴 建築 CAD による効果的な図面作成方法について
- 下村 尊彦* 不動産証券化により加速する J-REIT 市場について
- 宮川 雅人 街路型集合住宅・街並みからみた都市住宅のあり方について
- 山崎あゆち* 小学校の防犯・防災の現状と対策について



小石川正男(短大)教授・森田吉晃(短大)助教授・田所辰之助(短大)専任講師 ——

- 永見 幸太 1930 年代の都市美協会と石川栄耀の活動に見る広告と都市の関係について



中山 優(短大)教授・岡田 満(短大)教授・内藤正昭(短大)専任講師 ——

- 田澤 拓郎*
井上 聡 } RC 部材の力学的挙動に関する実験的研究（その 1）～（その 4）
- 金指 聡
遠藤 優 } 軸方向力による付加曲げモーメントを考慮した構造物の弾塑性解析
- 古矢 岳史
小中 亮平 } 南極昭和基地産骨材を減量させたアルミナセメントコンクリートの低温環境での強度発現について
- 川名 圭介 } その 1 実験概要と硬化前コンクリートの諸実験結果 その 2 実験結果と考察



黒木二三夫(短大)助教授

- 高梨 一 閉鎖型膜屋根の風力特性に関する実験的研究 その 1 平均風力係数について
- 本吉 香織 閉鎖型膜屋根の風力特性に関する実験的研究 その 2 ピーク風力係数について
- 山岸 正伸 閉鎖型膜屋根の風力特性に関する実験的研究 その 3 数値解析について



短期大学部

■ 小石川ゼミナール

阿部 雅美
岩井かおり
小野元愛子
島田 佳織
茶屋原 梓
堤 美弥
中川 知英
中込 彩
毛利真理子

■ 岡田ゼミナール

石塚 大貴
岩原 文彦
遠藤 杏子
岡田 浩司
國分 久稔
齋藤 卓
坂井 美穂
藤田 大心
八木橋泰彦
岡崎 龍

■ 下村ゼミナール

今村 恒太
総谷 圭司
仁村 泰久
長谷部知行
柳 千尋
渡辺 愛

■ 中山ゼミナール

石田 知樹
大坂 寿子
大竹美智子
加藤 祐一
河合 南
菅原 将人
芹澤 祐紀
津幡 あき
中西 友希
中平 優
根本 茜
浜谷 祐毅
福田 豊
益子菜穂子
松本奈々子

■ 吉野ゼミナール

大金 義延
大西 好将
大場 章生
木村 梓
関 圭一
中田 春奈
萩 竜一
橋本瑠衣子
旗野 宏介
濱野 恵美
福原 秀和
山本大太郎
渡辺 剛士

■ 黒木ゼミナール

池田 ふみ
大西 弘恵
小川 克己
菊池 佑太
古藤 裕
高橋 佑輔
東堂園泰江
細木奈穂子
松本亜由美
水垣 愛弓

■ 森田ゼミナール

岩佐 紘樹
上野 雄大
江藤 湊
小島 建二
小山 裕貴
立花 葉子
田中 秀峰
野村 雄太
松原 永昌
水野 聖子
元木 健人
崔 裕貴

■ 田所ゼミナール

荒井絵里子
大谷 健悟
小山 潤
佐藤 拓也

鈴木 雅人
葉山真都加
前坂 達男
松井 八重
森 祐介
柳橋 啓一

■ 内藤ゼミナール

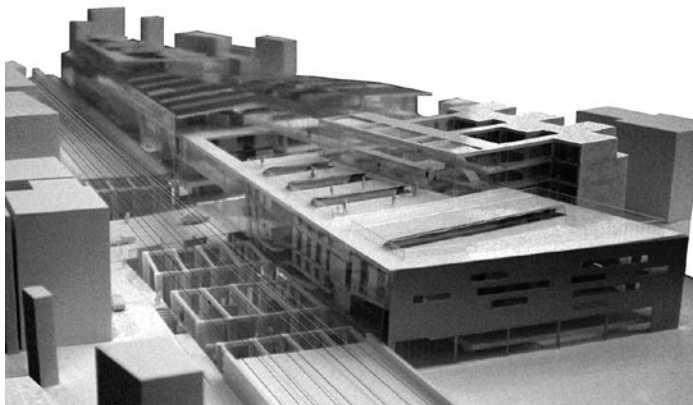
石井 祐太
稲山 勝士
甲斐 智博
工藤 英介
小林 英一
桜井 徹
渋谷 貴弘
仲澤 佑太

■ 羽入ゼミナール

梅原 智洋
大関 裕
荻原 菜里
来栖 真弓
小玉 佑太
近藤 優季
櫻木 智規
佐藤圭一郎
庄司 和生
鈴木 千明
永山 紗希
蓮沼 優子
村上 祐司

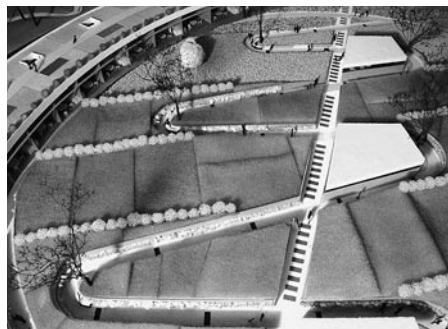
齋藤賞 修士設計

地域コミュニティ再生と町工場活性化計画
—大田区大森西地域の新しい産業振興のための複合型工場と集住体の設計—
／中野泰宏



駿建賞 修士設計

旧国立公衆衛生院
跡地再生計画
—新しい医療行為
に対応した地域ホ
スピタルパークの
計画—
／大前多恵子



桜建賞 卒業制作

麒麟 stitch
—集合住宅再開発における森林共生建築群の提案—
／三好礼益



モクミツ・サイセイ
～kyojima redevelopment
project～
／上野建吾



奨励賞 卒業制作

ooya underground project
／山田修爾



新任教員紹介

佐藤光彦 先生
(助教授・建築設計, 建築計画)



略歴

- 1962 年 神奈川県生まれ
- 1986 年 日本大学理工学部建築学科卒業
- 1986 年 伊東豊雄建築設計事務所入社
- 1993 年 佐藤光彦建築設計事務所設立
- 2004 年 名古屋市立大学芸術工学研究科助教授

主な作品・受賞歴

- 2001 年 第 17 回吉岡賞 (仙川の住宅)
- 2002 年 JCD デザイン賞優秀賞 (+A VIA BUS)
- 2002 年 通産省グッドデザイン賞 (保土ヶ谷の住宅 2)
- 2003 年 日本建築家協会新人賞 (西所沢の住宅)

ちょうど 20 年前の 1986 年に本学を卒業し、10 年前から非常勤講師として御茶ノ水のキャンパスに戻ってきて、本年度から、建築設計・計画担当の助教授として着任することになりました。

私は、理工学部を卒業後すぐに、建築家の伊東豊雄さんの事務所に就職し、いくつかの作品やコンペを担当しながら、多くの得難い経験を積んだのち、30 歳で独立して自分の事務所を設立、住宅を中心にさまざまな設計活動を行っています (作品については HP をご覧ください: msaa.jp)。

また、本学をはじめさまざまな大学で非常勤講師として設計教育の指導をしつつ、2 年前からは、名古屋市立大学の助教授として教鞭をとってきました。

最近の設計課題や卒業設計を見ていて感じるの、テクニックは私が学生だった頃に比べると格段に向上しているように見える (CAD のおかげ?) のですが、何かしら見る者に訴えかけてくる作品が少なくなっているということです (これはどの大学でも同じです)。

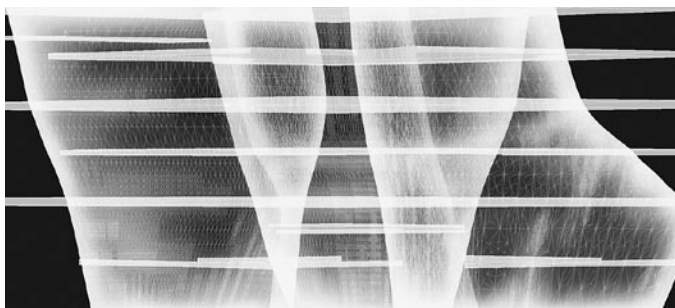
欠けているのは、建築に対する問題意識ではないかと思います。自分で何かしらの問題設定ができなければ、その答えとしての設計や研究が面白くなるはずはありません。

「何を、何のためにつくるのか」ということを、自分の設計・研究活動とともに、学生諸君と一緒に考えていきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。 (さとうみつひこ)



仙川の住宅



武蔵境新公共施設設計プロポーザル案

川島和彦 先生
(専任講師・建築企画経営)



略歴

- 2000 年 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程不動産科学専攻修了
- 2001 年 日本大学理工学部ポスドクター
- 2002 年 財日本システム開発研究所研究員
- 2004 年 国土交通省国土交通政策研究所客員研究官
- 2005 年 日本大学理工学部理工学研究科研究員・ノートン大学客員講師 (カンボジア王国)

大学院修了後、大学、非営利研究機関、国の研究機関において、主に都市計画や地域政策に関する調査・研究、教育、プロジェクトなどに携わってきました。多様な主体が複雑に関係する都市計画という分野において、市民やNPOなどの参加の重要性や各主体との連携の必要性が言われる中、さまざまな立場で多くの調査・研究、プロジェクトに携わってこられたことは貴重な経験であり、今後もさまざまな角度から建築・都市を見つめることを忘れずに取り組んでいきたいと思っています。わが国においては人口減少時代に突入し、これまでの拡大・成長を前提とした都市政策からの転換が求められています。今後の都市のあり方、都市計画の望ましい方向について、学生の皆さんと真剣に考えていけたらと思っています。(かわしまかずひこ)

末岡佐江子 先生
(助手)



略歴

- 2001 年 日本大学理工学部建築学科卒業
- 2003 年 日本大学大学院理工学研究科博士前期課程建築学専攻修了
- 2003 年 渡辺明設計事務所
- 2004 年 NAP 建築設計事務所
- 2005 年 S2 Landscape Design and Planning

今春から建築設計の授業で助手をさせていただくことになりました末岡佐江子です。私は日本大学大学院を卒業後、およそ3年間いくつかの設計事務所で設計の仕事をしてまいりました。学生の頃は、先生だけでなく助手やTAの方々からいろいろと刺激をいただいたおかげで、設計の授業はかなり過酷でしたが、唯一真剣に取り組んだことを覚えております。また、終わった後の疲労感と充実感はなかなか他のことでは味わえないものでした。今度は私が設計の助手をさせていただくということで、できる限り今までの経験も生かしながら、いろいろなかたちで先生や学生の方々のお手伝いができればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。(すえおかさえこ)

酒匂教明 先生
(短大助手)



略歴

- 1996 年 日本大学理工学部建築学科卒業
- 1996～2000 年 (株)東京ソイルリサーチ勤務
- 2005 年 日本大学理工学研究科博士後期課程建築学専攻修了
- 2005～06 年 日本大学理工学部建築学科副手

今春から、助手として短期大学部建設学科に籍を置くことになりました。昨年度は理工学部建築学科に所属していましたので、ご存知の方もいるとは思いますが、改めてよろしくお願いします。

専門は構造系で、研究は主に地盤・基礎関係に携わってきました。皆さんとは応用力学や建築実験の授業でお会いすることになると思います。建設工学はものづくりに即した実学ですから、皆さんに身近な存在である一方で、難しい理論も多々あります。私は「えっ？」といった仰天奇問にも対応していますので、遠慮せずに質問にきてください。

また、たまに建設学科教室事務室に常駐しています。履修や進路でわからないことがありましたら、いつでも声をかけてください。(さこうのりあき)

■宇杉和夫助教授と宮田智大氏（'05年修了）他1名連名の原著論文「幼少時の住宅居住体験評価と自己の将来の住宅空間の方向性に関する研究 ―建築学科学生のプライバシーとコミュニケーション意識を通して―」が、日本建築学会計画系論文集 NO.595（2005年9月号）に掲載された。

■半貫敏夫教授と高橋弘樹君（半貫研D3）連名の原著論文「南極昭和基地建物の木質壁パネル木材の残存強度調査」が南極資料 Vol.49, No.3（2005年11月、国立極地研究所）に掲載された。

■田所辰之助短大専任講師は、12月4日に江戸東京博物館で行われた江戸東京たてもの園セミナー「モダニズムと昭和」において、講演「モダニズムのドイツと日本 ―『近代』としての近代建築」を行った。

■3月9日、「AD2006」が城戸崎和佐氏、小泉雅生氏、佐藤光彦氏、曾我部昌史氏の4名の建築家を審査員に行われた。「AD2006」は、卒業制作24作品の応募から、三好礼益君（今村研）の「麒麟 stitch ―集合住宅再開発における森林共生建築群の提案―」が受賞した。「AD2006+」は、修士設計14作品の応募があったが、該当作品なしであった。



1号館カフェテリアで行われた公開審査

■雨宮廣明君（若色研M2）の「URBAN AMENITY PARK」が、「屋上利用提案競技 優秀賞」（主催：NPO 屋上開発研究会）を受賞した。都市における

教室ぶろむなード

屋上空間の有効利用をテーマに、学生を対象とした41名の応募から選ばれた。

■空間構造デザイン研究室（斎藤公男教授、岡田章助教授）の大学院生や滋賀県立大学の学生の手により、1月20日、「イベント学会 2005 神戸大会」の会場内に、人力施工が可能な展開型シザーズドーム「パイオかまくら（直径約10m）」が建設された。この大会は、「災害を生き抜くイベント」をテーマに、パネルディスカッションと展示が行われたもので、斎藤公男教授は、パネラーとして講演「災祭ドーム」も行った。



パイオかまくら 外観

■平成17年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科293名、大学院建築学専攻博士前期課程54名、同後期課程2名、同不動産科学専攻博士前期課程9名、短大建設学科106名であった。

■友澤史紀教授、野村歡教授、若色峰郎教授、芥川文恵助手、酒匂教明副手、星和磨短大副手が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、渡辺富雄専任講師が助教授に、石垣秀典助手が専任講師に昇格された。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、佐藤光彦助教授、川島和彦専任講師、末岡佐江子助手、高橋弘樹副手、平野修也副手、三上功生副手の6名である。

■4月1日付で新しく短大建設学科のメンバーになったのは、酒匂教明助手である。

■建築学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉

大森 文彦（建築法規Ⅱ，司法と建築）
小川 広次（デザイン基礎，建築設計Ⅰ）
尾田 清貴（司法と建築）
高橋 真（建築設計Ⅱ，Ⅲ，設計演習Ⅰ）
富永 祥子（建築設計Ⅰ，建築デザインⅠ）
友澤 史紀（建築材料特論Ⅱ）
中田 善久（建築生産実験）
西沢 大良（建築設計Ⅳ，Ⅴ）
野村 歡（建築計画特論Ⅱ）
平野 陽子（建築構法Ⅱ）
前川 孝（建築施工法，建築積算・生産管理）
宮城 俊作（ランドスケープデザイン）
若色 峰郎（建築学特別講義Ⅲ）

〈退任〉

芦原 太郎（建築設計Ⅴ，（旧）設計演習Ⅱ）
五十田 博（建築構法Ⅱ）
内田 尚宏（建築設計Ⅱ，Ⅲ，設計演習Ⅰ）
木村 翔（建築環境工学特論Ⅰ）
アストリッドクライン（建築設計Ⅳ，Ⅴ）
佐々木葉二（ランドスケープデザイン）
佐藤 光彦（建築デザインⅠ）
西村 敏雄（建築構造特論Ⅲ）
畠山 厚（建築施工法，建築積算・生産管理）
依田 彰彦（建築生産実験）

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉

新藤 力（インテリア計画）

〈退任〉

有賀 棟央（インテリア計画）

●駿建目次

（2006.4 Vol.34 No.1 通巻138号）

表紙

1. 「コートのある家」

設計：佐藤 文

2. 「阿佐谷南の家」

設計：小川広次

3. 「久我山の家」

設計：小平恵一

4. 「Court Decor OYAMADA」

設計：田井勝馬

プロフェッショナルを目指して

2

建築学科履修要項

3

短期大学部建設学科履修要項

11

専門科目使用教科書並びに参考書

14

平成17年度 各賞受賞者一覧

18

平成17年度 修了生・卒業生 研究課題一覧

20

平成17年度 各賞受賞作品

33

新任教員紹介

34

教室ぶろむなード

36